

色彩・感性・画像 ～ 目で見て、心で感じる科学

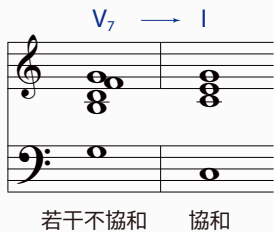
関西大学総合情報学部 浅野晃ゼミ

教授 浅野晃 2021年度ゼミ生 4年生15名, 3年生12名



学生の興味関心を、教員との対話で「育てて」、卒業研究のテーマとしています。

■ 「動的」と「解決」



「解決」は音楽の用語

調和するものの前に
不調和なものを置いて
適切に移動すると、
「調和感」が高まる

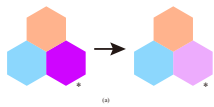
動的な配色や図形に対する感性にも、同じ現象があるのでは？

■ 動的な配色

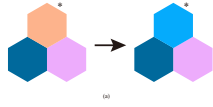


調和する配色と、
不調和から調和に
動的に変化する配色を、
ランダムに呈示

■ 初期の実験(卒業研究)では



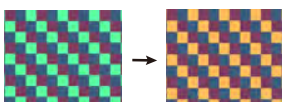
動的配色のほうが
調和感が上がる例



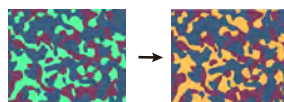
動的配色のほうが
調和感が下がる例

■ その後の研究で (名城大学・川澄未来子先生との共同研究)

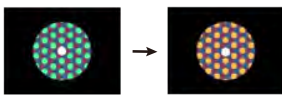
右側の変化(→)のほうが、調和感がより大きく向上する



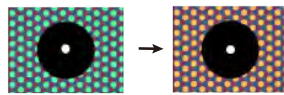
規則的・直線図形よりも、



不規則・曲線図形

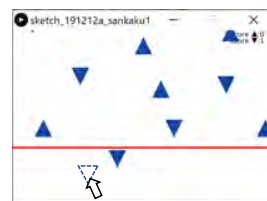


視点を含む中心視での変化よりも



視点を含まない周辺視での変化

■ 動的な図形



▼と▲が上から落ちてくるのを、マウスカーソルで捕まえるゲームを行う

三角形の向き(▼や▲)と、
動作の向き(落ちてくるか上がっていくか)で、
捕まえやすさに違いがあるか？

向きが一致しているとき
(▼が落ちてくる・▲が上がっていく)
捕まえやすい

■ 「文理融合的」研究

「文系的」な興味を持っているゼミ生も多いです

■ 色彩で認知するか、図形で認知するか、
性別による差があるか？



「赤いミカン」と「オレンジ色のリンゴ」を呈示して、「どちらがリンゴに見えるか？」を尋ねた

男性は「図形」で認知し、「オレンジ色のリンゴ」がリンゴに見える
女性は「色彩」で認知する(「赤いミカン」がリンゴに見える)
という傾向があるといわれるが、この実験では男女の差はなかった

調査と実験を組み合わせた卒業研究もやっています

■ 日本における白色の嗜好の調査と、
白色の範疇に含まれる色を調べる実験



山陽・九州新幹線
「白藍色」
青みがかったのが
白の範疇である



東海道・山陽新幹線
こちらは白色



「白である部分」と「白でない部分」
の間に境界線を引いてもらう実験

現代では、白とされる色の範囲は
狭くなっているが、実験では
色相による範囲の差はなかった

■ ジェンダーと色彩の関連の調査と、
服装や道具の色の嗜好とジェンダーの関連を調べる実験



男女学生に、左のアイテムから、
好きな色を選んで身につけてもらった

男性のほうが色への規範意識が強く、女性の
ほうが自由という傾向があった



■ このQRコードで、浅野のウェブサイト・Facebook/twitterアカウントなどに
アクセスできます。
E-mail: a.asano@kansai-u.ac.jp